

2004年6月16日

No.36

# 又市征治 国政だより

又市征治事務所

発行責任者 谷岸 孝士

富山市下新町 4-27

TEL 076-441-0800

HP: www.s-mataichi.com

## 国会終わり、又市幹事長は参院選の陣頭へ

1月19日から150日間開かれた通常国会は16日で閉会し、24日の参院選公示・7月11日投票へ向け全面的な選挙戦に突入した。又市幹事長はすでに広島、香川、横浜、新潟、仙台の遊説を終え、17日からは島根、秋田、熊本、鹿児島、富山、盛岡(以上は公示前まで)を駆けめぐり、訴える。



▲神奈川県選挙区に出馬予定の、上田けい子氏とともに  
◀社民党比例代表として出馬予定の、かんの哲雄氏の集会にて

## 年金改悪・米軍協力法案を許したのは誰か

この国会の二大争点は「年金改悪」と「有事法制第二弾およびイラク参戦」だった。社民党はこの二つに正面から反対してたたかった。これに対し民主党は、野党として国民の利益を守れない姿がこの二争点で鮮明になり、「二大政党論」では日本の進路選択になりえないことが露呈した。

すなわち、民主党は年金では初め自治労運動等の後押しで「廃案」を主張していたが、衆院で不可解な「三党合意」を結んで参院のたたかいを迷走させ、最後は自党だけ質問を終えたあと強行採決を許し、正常化の最低条件とした3名(社民党福島党首・共産党議員・無所属の西川きよし議員)の「首相補充質疑」さえ放り出した。

また、有事法制第二弾は世界中どこでも米軍の戦争に協力する国内・国際の体制づくりであるのに、民主党は修正案を出し、採決でもほとんど「反対」論を述べながら最後は賛成。イラク派兵への反対も、内部は「国連待機軍」論などありパラバラで、撤兵・真の平和貢献を願う国民世論を裏切った。

## 又市質問は26回に(通算115回)

又市幹事長は今国会でも質問26回(本会議1回、予算委員会1回、総務委員会12回、決算委員会12回)を記録。土・日・祝日を除き4日ごとに質問に立った計算になる。一昨年9月の初質問以来では115回。

このうち総務委員会では、今年度交付税等の2兆8千億円にのぼる削減で自治体が苦しめられていることを追及した結果、政府は6月になり軌道修正した(「税源移譲3兆円を先行」など)。

また決算委員会では又市幹事長は2カ年にわたり、国の特別会計の不正や無駄遣い・隠し財源・天下りのしくみをシリーズで追及し、同委員会の全会一致の「決議」にまとめ上げた。特別会計は64の勘定が錯綜しており、純計で200兆円(一般会計純計の6倍)で、これを正せば年金の国庫負担財源など容易に生み出せる。